

取した腭液中の telomerase 活性について検討を行い画像診断では良悪性の鑑別が困難である intraductal carcinoma の発見を目的とした。

【方法】ERCP 時に造影カテーテルを膵管内に選択的に留置しセクレチンを静注後、吸引により腭液を採取する。これらの腭液を使用し細胞診と telomerase 活性の比較検討を行った。

【結果】intraductal carcinoma 13例中11例 (85%) に telomerase 活性を認めた。adenoma では telomerase 活性は認められなかった。細胞診の正診率は intraductal carcinoma では13例中4例 (31%) と低率であった。

【結語】腭液中の telomerase 活性測定法は膵管内乳頭腫瘍の術前診断として有用であった。

5. Three-dimensional portography using multislice helical CT is clinically useful for management of gastric fundic varices

(穹窿部胃静脈瘤の評価における 3DCT 門脈像の有用性)

松本明子 (内科学第一)

ヘリカル CT3D 門脈像 (3DCT) と経動脈的門脈造影を30人の穹窿部胃静脈瘤の患者に施行。3DCT がバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 (B-RTO) の適応・治療計画・術後評価に有用かを検討した。

3DCT で胃静脈瘤は全例、左胃静脈は19例、後胃静脈・短胃静脈は28例、胃腎短絡路は27例に描出された。これらの成績は経動脈的門脈造影とほとんど同様であったが、4例では、後胃静脈・短胃静脈が経動脈的門脈像では脾陰影に隠れて描出されず 3DCT では明瞭に描出された。3DCT では描出率だけでなく肝内

門脈2-3次分枝の細い血管と側副血行路全体が同時に血管径に関わらず明瞭に描出される利点もあった。また術後1週後に 3DCT 門脈像で静脈瘤消失を確認できた。

3DCT は門脈側副血行路の評価において、経動脈的門脈像に比べ、より侵襲が小さく、胃静脈瘤の患者において、BRTO の適応・治療計画・術後評価に有用であった。

6. Primary lymphoma of the central nervous system: a clinicopathologic study

(頭蓋内原発悪性リンパ腫の臨床病理学的検討)

谷口栄治 (脳神経外科学)

【目的】頭蓋内原発悪性リンパ腫 (primary central nervous system lymphoma, 以下 PCNSL) を臨床病理学的に検討し、その病態について考察した。

【対象と方法】PCNSL 症例27例について臨床上の検討 (年齢と Performance Status (以下 PS) の推移)、病理学的検討 (組織型、細胞動態、ウイルスとの関連) を行った。

【結果】①70歳以上の高齢者は治療前に PS の低下が著しい。②初期治療後 PS が不良あるいは腫瘍細胞増殖能指標が高値の症例の転帰は不良であった。③ immunoblastic type で増殖能指標が高値の場合、画像上再発なく全身状態不良となる場合がみられた。④術前ステロイド投与群において、アポトーシス頻度が有意に高かった。⑤PCR による EBV, HTLV-1 の検討では、全て陰性であった。

【結論】PCNSL に対しては種々の因子を考慮し、診断治療を行う必要があると考えられた。

第458回

広島大学医学集談会

(平成13年12月4日)

——学位論文抄録——

1. 数式化によって3次元測定から手舟状骨の形態を評価する試み

—3次元モデル作製に向けて—

福田祥二 (整形外科)

舟状骨の形状を数式化によって比較、再構築を行う

とともに、3D CT から舟状骨の3次元座標を取り出し実際の測定値との数値的な比較を行い、より正確な手術用モデルを作製する方法を検討した。対象は、広島大学系統解剖用遺体40体、51手であった。3次元スキャナーで計測を行い、フーリエ変換を用いて数式化した。再生曲線から立体モデルを作製した。10手に関しては、舟状骨摘出前後で 3D CT 撮影を追加し